

## R 6 年度 佐賀県公立学校教頭会 会長 挨拶

昨年8月、全国公立学校教頭会研究大会石川大会が行われました。久しぶりの参集型の大会は大いに盛り上がり、石川県の先生方には大変お世話になりました。その石川県で、令和6年1月1日に能登半島地震が発生したことに大きな衝撃を受けました。犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、1日でも早い被災地の復興を願うばかりです。被災地の学校では、子どもたちの学びを止めないために、副校長・教頭先生方が中心となって大変なご苦労をされていると思います。いつ、どこで、起こるかもしれない自然災害、自分の勤務校の危機管理体制を改めて見直さなければと身が引き締まる思いがしました。

このような自然災害だけではなく、国際情勢の不安定化も続くなど、現代は、変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の時代と言われています。様々な社会課題が存在する中、Society5.0を見据え、これからの社会を展望する上で、教育の果たす役割はますます重要となっています。未来の創り手である子どもたちが、たくましく生き抜くための資質や能力を確実に育む必要があります。私たち副校長・教頭は、児童生徒や教職員に対し、時代に合った適切な指導助言ができるように、日々努力を重ねていくことが大切です。限られた時間の中で課題解決に取り組むためには、他の学校や地域、関係機関などとの連携を深め、情報共有や意見交換を積極的に行うことで、お互いの経験や知識を生かしていくことが重要です。

佐賀県公立学校教頭会は、副校長・教頭が研修の場を通して「つながる」ことで力量を高めるための組織です。昨年度も理事の先生方を中心に、各専門部で積極的に活動していただき、実践発表や調査結果から得た学びを学校現場に生かすことができました。今年度も11月に研究大会を実施し、全国や九州地区研究大会にも参加して研修の推進を図っていきます。令和8年度の九州地区公立学校教頭会研究大会佐賀大会の開催に向けて積極的な参加をお願いいたします。日々、多忙な中に、研究としてまとめることは大変ですが、自分たちの職務内容を見直すことにつながり、再認識することでより理解を深めることができます。また、他地域や他校の取組を知ることが、今後の職務遂行に大いに役立つと思います。さらに、理事会や理事研修会での意見交流や各専門部の活動を通して、副校長・教頭だからこそ感じている課題を提言としてまとめ、関係機関へ伝えていくことができると考えています。

教頭会という横のつながりを生かして、会員の皆様がお互いの考えを気軽に交流しながら、共に協働し、「人・こと・もの」をうまく繋いでいくことで、課題解決に向かっていくことができればと思います。会長として、微力ながら精一杯務めてまいります。皆様のご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、日頃より本会を支えていただいております、佐賀県教育委員会、佐賀県市町教育長連合会、佐賀県小中学校校長会をはじめ、諸機関・諸団体の皆様に心よりお礼申し上げますとともに、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2024.5 千北 昌子